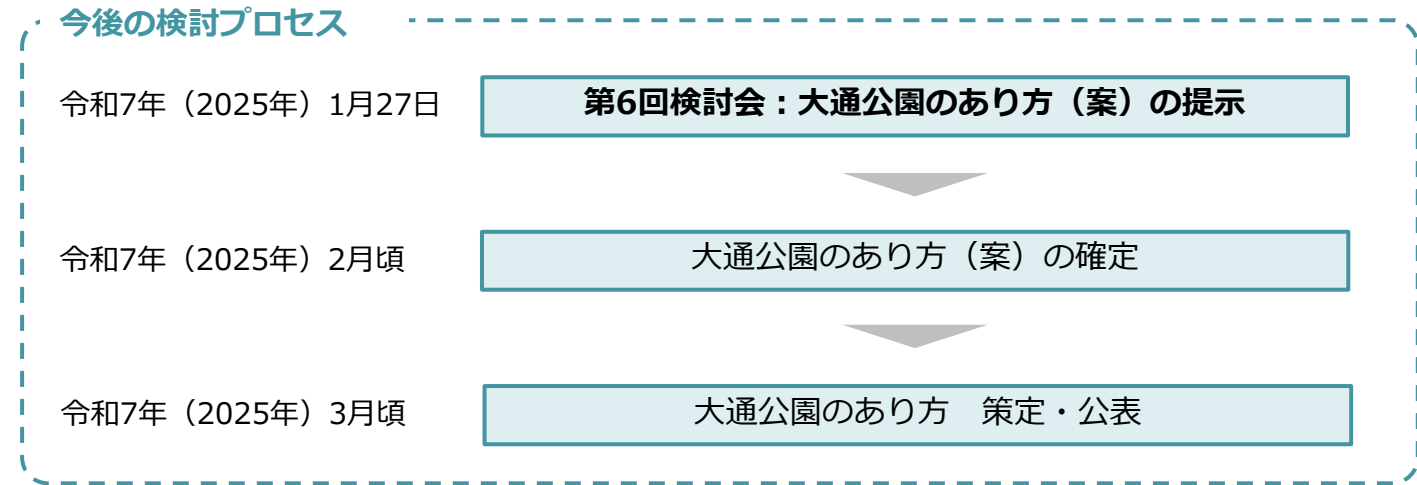


◆第5回検討会の振り返り

〇あり方の検討方針について	
【あり方の検討方針について】	【将来イメージについて】
- あり方のゴールをどこに見据えるか。この先の整備計画への反映の仕方についてどのように考えているか。 「大通公園の変遷」の中に、「大通逍遙地」と呼ばれていた時代のことを追記すべき。 - 再整備の理由に関しての記述が弱いのでもう少し協調すべき。「施設として限界」という点をもう少し打ち出した方がよいのではないか。 「Inclusive Green Corridor」の説明文に「多様な価値観を受け入れ」と書かれているが、喫煙や飲酒など、現状以上に何でもありと解釈されるのは困るのではないか。市民にとってわかりやすい表現を意識してほしい。	- 史実を手がかりに歴史性や地域性を深く解釈し、現在検討しているゾーニングが適切かを精査する必要がある。 「沿道と連携したみどりの軸の強化」について、公園の外とどう関係するのかを考える必要がある。これから都市が発展していく中で東西の軸機能をどのようにするのか、議論が不足している。 - 札幌の文化が重なり合って、公園としての環境が作られているということをイメージすると、位置付けがはっきりする。バラ園があったり、歴史施設があったりしながら、子供たちの遊び場もそういう意味でも包含されているというコンセプトやゾーニングを示すと良い。
〇5つの柱と10のキーワードについて	
【01：過去と未来を重ね合わせる】	周辺の道路、とりわけ大通北線・大通南線との関係性については記載すべきである。2m歩道については、車道側に広げて自転車通行帯にする方法なども考えられる。 - これからの周りの都市開発、社会のニーズの変容といったことを含めると、「大通公園の魅力と機能の向上」を公園の中だけでやって良いのか。公園の整備だけになってしまうのではないか。 具体的にどのような景観を大通公園に作って見せようとしているのか、大通公園から見る景観については、どのようなものとして大事だと思っているのか、発信していくことが重要である。
【02：日常と非日常を重ね合わせる】	【04：一体性と個性を重ね合わせる】
- イベントとの両立についての議論が、空間構成や公園施設の機能強化といったハード面に偏っているという印象だが、本来はイベントのルール作りなど、ソフト面の対応がある程度大きくなると感じている。 - 大通公園の周辺には3号認定の保育所が非常に多いという印象があり、遊びの機能というよりは、安全に体を動かせる空間が必要だと受け止めている。	- 景観の軸として、関係部局と連携しながら、保全や活用を進めていけないか。 具体的にどのような景観を大通公園に作って見せようとしているのか、大通公園から見る景観については、どのようなものとして大事だと思っているのか、発信していくことが重要である。
【03：都心のみどりとまちなみを重ね合わせる】	【05：公共と民間の強みを重ね合わせる】
- 現状において、芝生がうまく管理できていない部分が見られるため、「しっかりとした芝生空間として更新していく」といったメッセージもあった方が良いのではないか。 - 大通公園の沿道には建物更新等の計画や構想があることから、公園が外側に連携していく状態を作る必要がある。 - 公園側歩道部（2m歩道）の活用イメージが掲載されているが、幅2mでは絵にあるような形で多くの人が共存することは難しい。	現在の管理運営体制（札幌市・指定管理者）の分析を含め、大通公園で新たなマネジメント方法を選択していくという理由を更に整理すべきである。トライアンドエラーとか柔軟性を持って、色々なことにチャレンジし、時代の変化や世の中・社会の変化に対応して公園のあり方を模索しながら作り出していく、創造性といったことも書けると良い。

◆本資料の構成

大通公園のあり方（案）	
検討にあたっての与条件整理、大通公園の現状把握と方向性から大通公園のあり方（案）として空間デザイン戦略・管理運営戦略と将来イメージを示します。	
1. 背景と目的	
1-1 はじめに	P1
1-2 公園の概要	P1
1-3 位置	P1
2. 検討にあたっての与条件整理	
2-1 大通公園のあり方の検討経緯	P2
2-2 上位計画における位置づけ	P2
2-3 社会環境の変化	P3
2-4 大通公園の変遷	P4
3. 大通公園の現状把握と方向性	
3-1 大通公園の魅力と機能の向上	P5
3-2 「いこい」と「にぎわい」の両立	P6
3-3 沿道と連携したみどりの軸の強化	P7
4. 今後の大通公園のあり方	
4-1 テーマ・コンセプト	P8
4-2 取組詳細	P9
4-3 大通公園の将来イメージ	P12



1-1 はじめに

大通公園のあり方について

札幌の都心は、約150年前に火防などを目的に道路として整備された大通を基軸にまちづくりが進められ、発展を続けてきました。その中で大通公園は、火防線から逍遙地（散策する場所）、市民のための活動空間（市民が過ごせる空間）、そして都市公園へと、時代に合わせて姿を変えながら変遷してきました。

現在、大通公園周辺では、札幌オリンピックが開催された昭和47年（1972年）頃に建設された建物が更新時期を迎えていることから、各所で建物更新の動きが活発化しています。大通公園も平成元年（1989年）から6年をかけて実施した再整備から約30年が経過し、施設全体の老朽化が進んでいます。また、イベントの種類や期間が増えるなど、公園全体の使われ方が変わってきているほか、時代の変化とともに人々の価値観やライフスタイルも変化し、公園に求められる役割そのものも変化してきています。

そのような背景の中、まちとともに姿を変えてきた大通公園について、これまでになくくまれてきた価値を継承しつつ、さらなる魅力と活力にあふれる空間へと発展させていくため、「大通公園のあり方」を策定します。



1-2 公園の概要

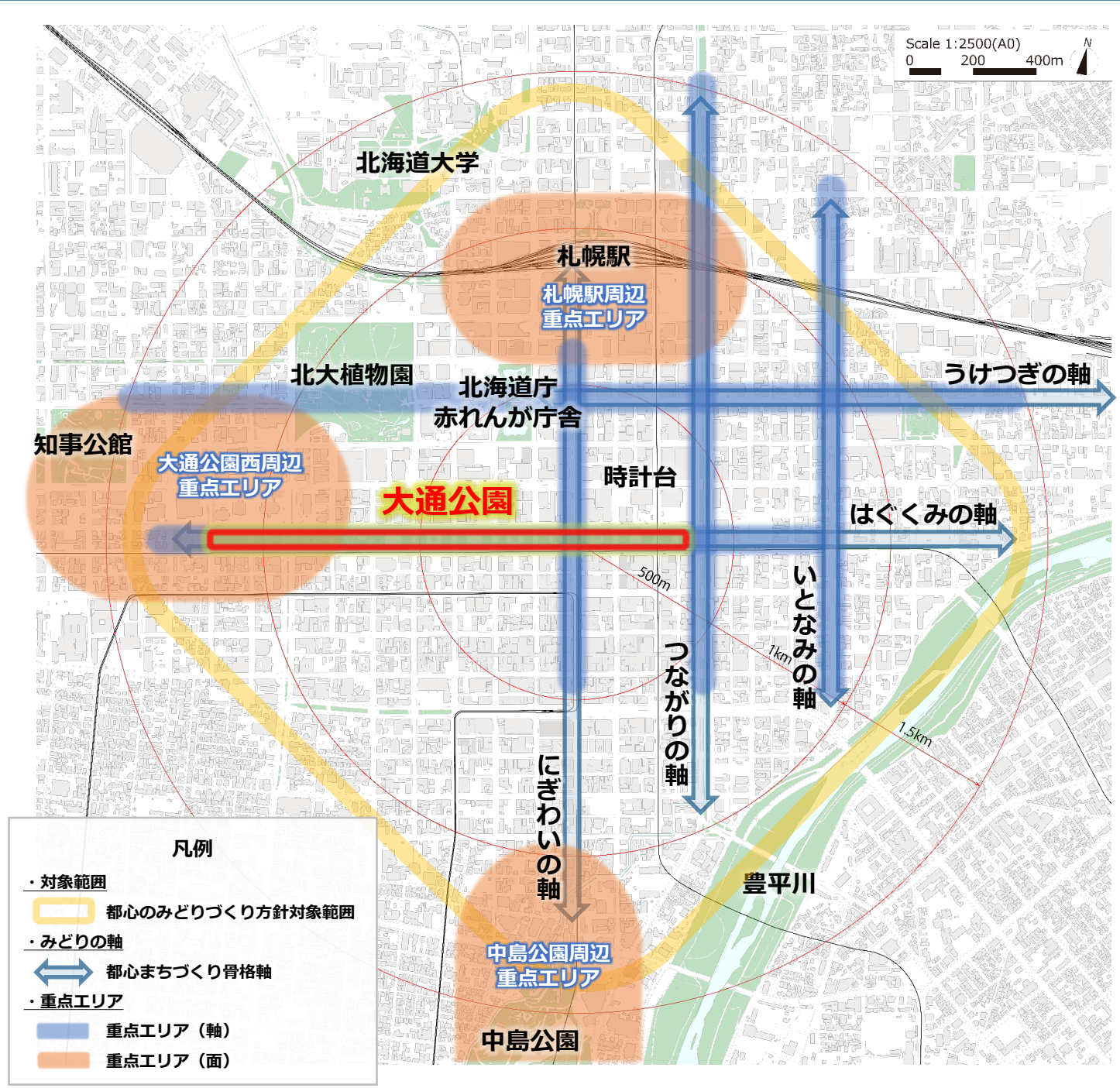
公園の概要

- 【所在】札幌市中央区大通西1～12丁目【面積】78,901㎡【種別】特殊公園
- 【変遷】明治4年（1871年）開拓使により火防線等を目的に広幅員の道路を整備
- 明治44年（1911年）西3～7丁目において本格的な公園整備
- 昭和25年（1950年）さっぽろ雪まつり初開催
- 昭和43年（1968年）札幌市創建百年記念事業として西1・2丁目を公園化、西4丁目などで噴水を整備
- 昭和55年（1980年）都市公園法を適用して大通公園として告示
- 平成元年（1989年）大通公園リフレッシュ事業により再整備（～1994年完成）

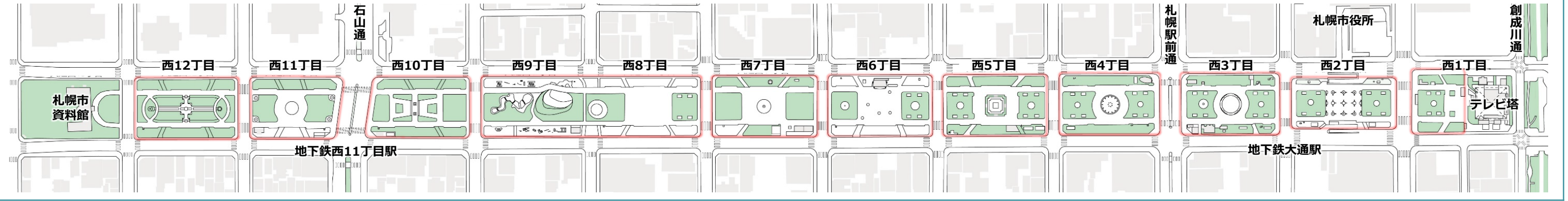


1-3 位置

位置図



公園の現況平面図



2-1 大通公園のあり方の検討経緯

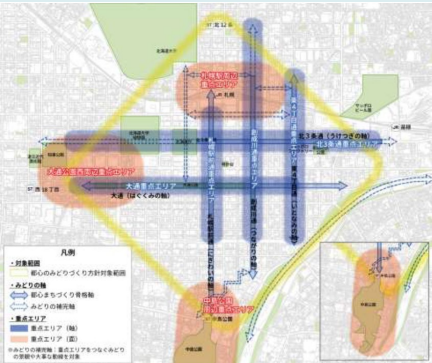
■札幌市都心のみどりづくり方針の策定

- 札幌市は都心のまちづくりの更新期にあり、新型コロナウイルス感染症や地球温暖化等による社会ニーズの変化などを踏まえ、「札幌市都心のみどりづくり方針」を策定している。
- 大通公園のあり方の検討は、都心のみどりづくり方針の目標を実現するための主要事業のひとつとして位置付けられている。



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」
(令和5年（2023年）10月）

- 大通重点エリアはみどりづくりの方向性として「都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり」を位置づけている。



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」
(令和5年（2023年）10月）

- 施設の老朽化や公園周辺の建物更新などの機会を捉えて、大通公園においても、求められる役割や機能の変化に伴い、あり方検討を行うこととした。



出典：大通西4南地区市街地再開発組合

2-2 上位計画における位置づけ

- 大通公園は、みどりの骨格軸や、市民や来訪者のいこいやにぎわいの交流拠点として、都心の発展に向けさらなる魅力と機能の向上が求められている。

■大通のまちづくりの変遷

- 大通は明治4年（1871年）にまちづくりの基軸として設けられ、時代に合わせて姿を変えながら、今日に至る。

明治	火防などを目的として後志通（のちの大通）が整備され、これを基軸にまちづくりが進んだ。その後に逍遙地（散策する場所）としての整備もなされた。		
大正 ～昭和初期	社会の近代化を背景に都市機能の集積が進んだ。		
昭和中期 ～昭和後期	人口の増加に伴い急激な都市基盤整備が進んだ。		
平成 ～令和・将来へ	人口減少局面に差しかかる中、都市の成熟化が進展し、新たな局面へ。		

■上位計画における大通の位置づけ

①第4次札幌市みどりの基本計画

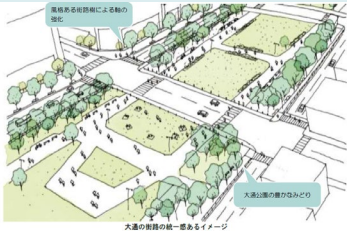
●みどりの将来像（都市）

- 大通公園や中島公園といった大きな公園やみどりのオープンスペースが、市民や来訪者のいこいやにぎわいの交流拠点となり、札幌に活力をもたらしています。

②札幌市都心のみどりづくり方針

●大通重点エリアのみどりづくり

- 方向性『都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり』
- 視点『公園と沿道との一体感のあるみどり空間の創出による、みどりの骨格軸の強化』



出典：札幌市「札幌市都心のみどりづくり方針」
(令和5年（2023年）10月）

③大通及びその周辺のまちづくり方針 -札幌都心はぐくみの軸強化方針-

●はぐくみの軸のまちづくりの理念

- 象徴性の継承と新たな価値の創造

～150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”～

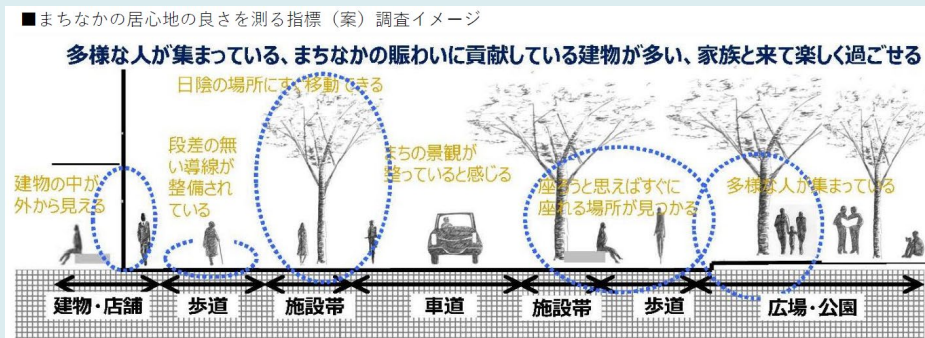
●大通公園エリアの強化の考え方

- はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ〔西Aゾーン〕
- 居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う都心の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ〔西Bゾーン〕
- 都心西側の回遊拠点を形成し美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ〔西Cゾーン〕

2-3 社会環境の変化

①「居心地の良いまちなかの創出に向けた取り組み」

- 国土交通省では、「地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々が集まり、交流を促進させることが不可欠」として、**居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり**を進めている。
- 『「ハード環境」を改善しながら、そこに滞在する人々の「空間の快適性・魅力」に対する感じ方を向上させ、その結果として「人々の行動が多様」なものになる。』という流れで、まちなかの状況を総合的に把握する視点の整理が試みられている。



出典：国土交通省(令和2年（2020年）3月)

③2050年に向けた札幌の環境の将来像

札幌市では、これまでの環境問題に関する社会情勢の変化への対応や、本市における環境問題の解決、将来に向けた環境政策のさらなる推進を図るため、第2次札幌市環境基本計画を策定。

■札幌が目指すべき将来像

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市「環境首都・SAPPORO」

■目指すべき将来像の実現に向けた施策

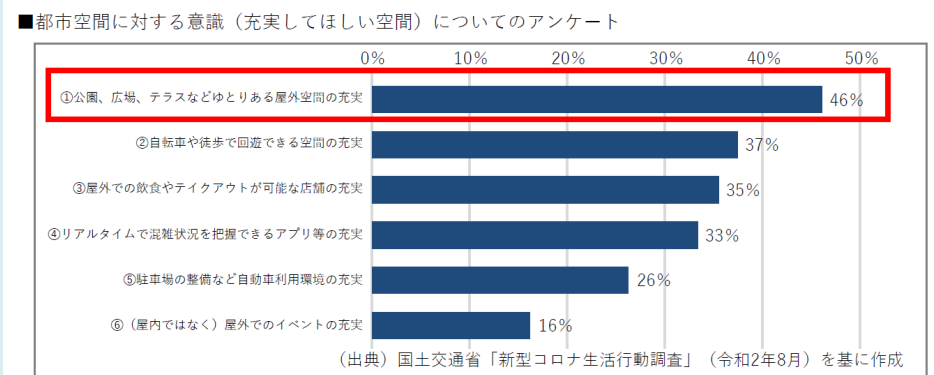
●5つの柱

「健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現」
「積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現」
「資源を持続可能に活用する循環型社会の実現」
「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」
「環境施策の横断的・総合的な取組の推進」



②公園をはじめとした屋外空間の価値の再定義

国土交通省の行った調査では、**今後充実化が求められる都市空間として「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間」**が挙げられている。



出典：国土交通省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会 中間とりまとめ(参考資料)」(令和3年（2021年）4月)

④都市公園の柔軟な管理運営のあり方

国土交通省では、民間との連携による、より柔軟に都市公園を使いこなすための質の高い管理運営のあり方等について議論・検討を行い、提言をまとめている。



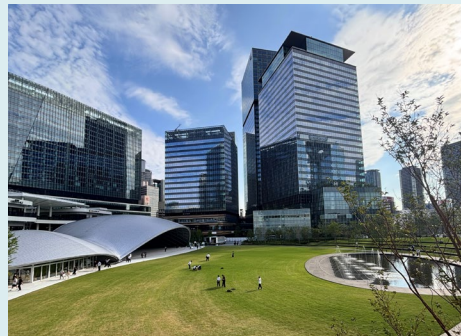
出典：国土交通省「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（概要）」(令和4年（2022年）10月)

⑤昨今の他都市における公園中心のまちづくり

近年、社会ニーズを支えるプラットフォームとして、オープンスペースを中心としたまちづくりの取組が進められており、周辺の経済活動活性化や新たな価値創出に寄与している。

●グラングリーン大阪

- 「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」として、公民連携の枠組みの中で、大規模ターミナル駅前に約45,000㎡もの大規模で高質な都市公園を整備し、公園を中心とする圧倒的なみどりに包まれた空間や多様なアクティビティが生まれる大規模複合再開発を実現。
- 市民・来街者や、企業・研究機関等がチャレンジし活躍できる場・仕組みを用意し、**人々のQOL向上や企業のイノベーション創出など、新しい価値を共創**している。



●日比谷公園再整備

- 開園130年を目指し、日比谷公園に積層した魅力にさらに磨きをかけ、東京の「今」を映す新しい公園像を目指し再整備を進めている。
- 再整備にあたっては、**公園全体を環境機能を向上させる都市のグリーンインフラとして整備し、緑とオープンスペースによる都市環境の向上の取組を先導**している。
- ICT等を活用し、最新の利用状況や植栽の現況把握、積極的な情報発信などによる新たなパークマネジメントの展開**を目指している。



出典：東京都建設局公園緑地部「都立日比谷公園再生整備計画」（令和3年（2021年）7月）

2-4 大通公園の変遷

【土地の記憶】

- ① 大通公園付近に見られる水の記憶「札幌の水脈とメム（アイヌ語の湧き水）」：明治初期の地形図では、幾筋もの豊平川の旧河道が、扇状地の上をいろいろな方向に向かって流れていたことがわかる。豊平川の水の一部は、伏流水となって地下を流れ、地形や地質などの条件によって、扇状地扇端にあたるJR 札幌駅近辺などから湧き水（メム） となって湧き出していた。
- ② 南から北へ緩やかな高低差をもつ扇状地地形の扇端に位置する大通公園の地中には、堆積層の下に隠れた豊かな**微地形**が存在する。
- ③ 大通公園周辺を含めて、市内中心部の潜在植生は、「ハルニレ林：ハルニレ - エゾイラクサ群集、エゾトリカブト群集」に該当する。

【大通公園の変遷】

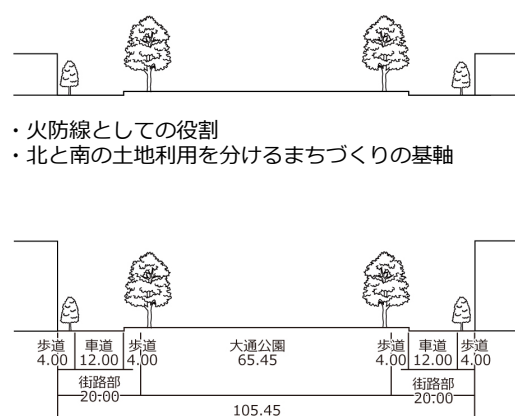
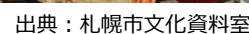
明治期、まちの火防線としてつくられた大通公園は、その後、造園の権威であった長岡安平を東京市より招き整備計画を推進。逍遙地としての顔が整えられた。昭和期にかけては、市民のための活動空間となる都市公園として変貌した。平成期においては、快適で潤いのある街並み形成を図るため、街区・道路・公園の一体的なまちづくりを目指した。令和期においては、これまでの取組を推進し、次の時代につなげるため、「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌都心はぐくみの軸強化方針-」等を策定した。

明治～昭和期：火防線として整備され、その後に逍遙地→市民のための活動空間→都市公園として変遷

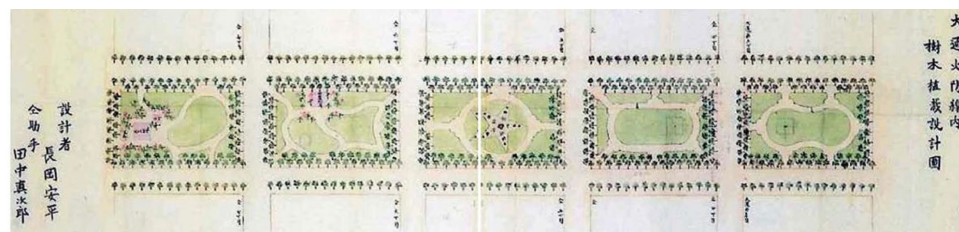
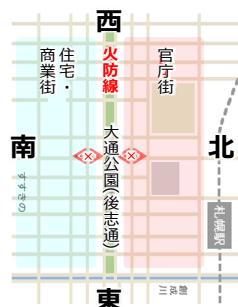
【設計思想】

長岡安平の設計思想 -自然的且つ、逍遙的な景観形成-

- ・ 自然地形を活かし人工を抑え、土地に適した樹木を植えてメリハリのある**景観の移り変わりを楽しめる**逍遙的景観
- ・ 自然を重視しつつ、美観と利便性にも配慮した**設計手法**



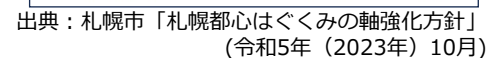
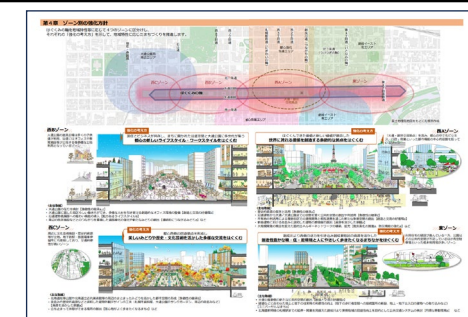
- ・テレビ塔の完成
- ・地下鉄・地下街の完成
- ・市民のニーズを取り入れた公園（現在の姿へ）



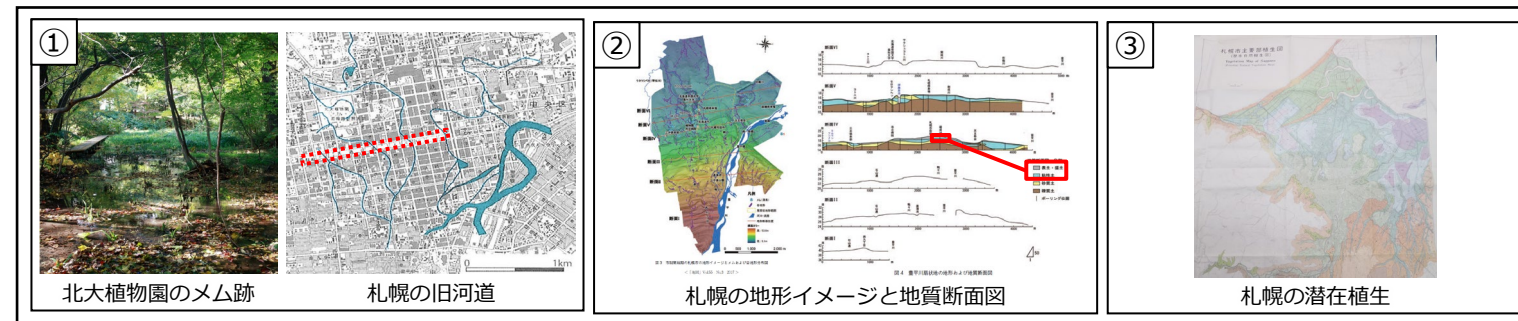
令和期：札幌都心はぐくみの軸強化方針、札幌市都心のみどりづくり方針

【重点的に進める取組の抜粋】

- 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出：周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進。
- 道路空間の利活用の検討：市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施。



明治期(開拓期)

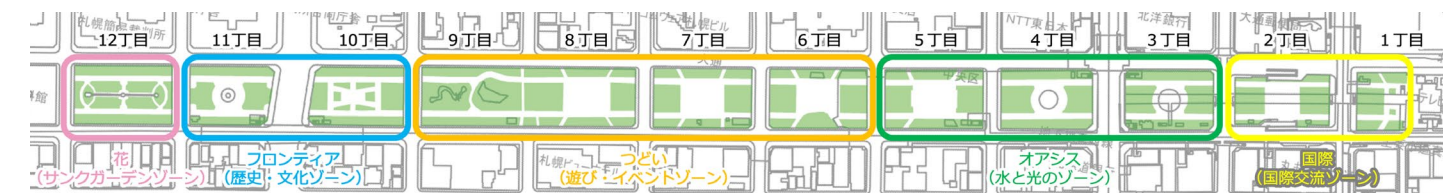
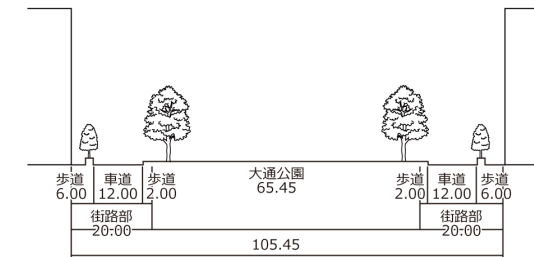


平成期：象徴空間としての一体整備

【設計思想】

テーマやゾーンを設定し、公園機能を高めるための整備

- ・ 札幌の都市軸として歴史的に形成された都市空間の価値の継承
- ・ みどりにあふれ水にふれることのできる都心のオアシスとしての機能の充実
- ・ 人々が集い交流し、多彩なイベントが行われる空間の形成
- ・ 都市と自然の融合を図り、緑・花・水・光などの演出
- ・ 札幌の都心景観にふさわしいデザインの採用



【今後の検討課題】

平成の再整備から30年が経過し、施設の老朽化や公園に対するニーズの変化、公園周辺の建物更新機運の高まり等により、以下の課題が浮かび上がってきた。

- ①大通公園の魅力と機能の向上
- ②「いこい」と「にぎわい」の両立
- ③沿道と連携したみどりの軸の強化

3-1 大通公園の魅力と機能の向上

現状

■公園と沿道が連携したにぎわい空間

- ・都心の中のみどりの豊かさや大倉山・テレビ塔への眺望などは、市民から親しみ愛されてきた。その中でも、立ち入ること・寝転がることができる芝生（lawn）や各丁目で展開される花壇は大通公園を特徴づける魅力であり、価値でもある。
- ・平成の再整備時から大きく育った樹木は、札幌を象徴するみどりの軸を強化する一方、公園⇄沿道間の見合いを難しくし、沿道との一体感を喪失させている。また、腐朽木・老木や鬱蒼とした樹林環境が一部に見られる。

■周辺施設や利用状況の変化

- ・大通公園周辺に保育施設が増えたことによる保育園児の利用増や都心居住者の増、イベント開催回数や期間の増といった**利用目的、利用時間の変化**が生じている。



■各種公園施設

- ・1989年の再整備当時からおよそ30年が経過し、**公園施設全体、特に電気・機械設備系の老朽化が深刻**である。このような状況に対し、**公園利用者からの改善ニーズ**もある。



■大通公園の維持管理及び運営

- ・指定管理制度の導入により、経費の縮減を図りつつ一定の管理水準を保っている。
- ・管理運営全般について、指定管理者の裁量による判断の機会が少なく、新たな取組や工夫があまりなされていない。
- ・都市公園において民間活力を導入するなど管理運営手法が多様化している中、大通公園は行政主導の従来の管理運営に頼っている部分がある。
- ・ボランティアや花壇推進組合と連携し官民連携による維持管理が行われてきたが、協力者数の減少に伴い花壇数が減少している。
- ・市民の意見や要望を取り入れたり、様々な担い手が参画できる機会が少ない。



主な課題

- みどりの軸を意識しながらも、沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討が必要である。また、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善も必要である。
- 老朽化施設全体に対するこれ以上の現状維持は限界を迎えている。公園利用者からの改善ニーズにも応えていく必要がある。
- 市民ニーズとして実利用に結び付いた改善が求められており、都心にふさわしい質の高い公園の設えが求められている。
- 管理運営体制やシステム・仕組みが硬直化しているため、柔軟な管理運営手法の検討や活用が求められている。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- ①みどりの軸を意識しながら、大通公園にふさわしい緑量の検討を行い、より望ましいみどり空間を創出する。
⇒ <都市の中心にあるみどり> <みどりと近接したまちなみ>
- ②時代やニーズの変化に合わせた公園施設の更新を行う。
⇒ <全項に共通>
- ③持続的な活動・より質の高い管理を見据えた**官民連携の更なる発展**を目指す。
⇒ <公共によるマネジメント> <民間事業者・市民団体の活力>

【維持・継承の方向性】

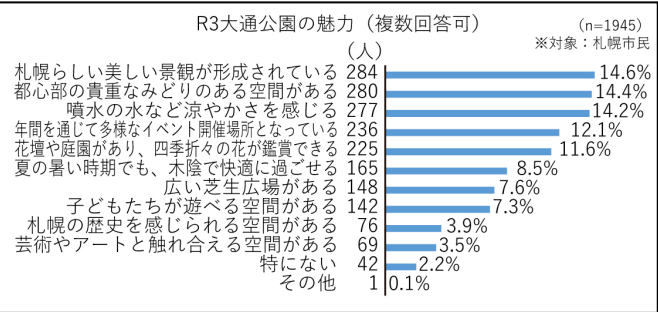
- ①札幌を象徴する景観である公園から大倉山・テレビ塔への眺望を確保する。
⇒ <連続した軸としての一体性>
- ②都心のオアシス機能を果たす公園の樹木・芝生・水景空間を継承する。
⇒ <都市の中心にあるみどり>
- ③戦後の公園整備から受け継ぎ、海外では観光コンテンツとなり得る花壇やバラ園を継承する。
⇒ <歴史性・地域性> <各街区の個性>
- ④ボランティア・民間企業が参画しながらの整備や維持管理を継承する。
⇒ <民間事業者・市民団体の活力>

⇒ <>：今後の大通公園のあり方を考えていく上でのキーワード

3-2 「いこい」と「にぎわい」の両立 現状

■大通公園の魅力

- 大通公園の利用者は、「美しい景観」「みどり」「水景空間」などを公園の魅力と認識している。
- 大通公園は1年を通してイベントが多く開催され、来場者の増加に伴い経済波及効果が大きく、公園におけるにぎわい機能を担っている。



出典：大通公園に関するインターネットアンケート調査結果（令和3年（2021年））

■イベント時の日常利用に関する市民意見

- 大通公園は休息や滞留といった日常の場としても活用されており、**イベント時においても日常利用を求める市民意見**がある。
- イベントの種類や期間、使用範囲が増えたことにより、**日常利用できる期間や施設、エリアの制限が広がっている。**

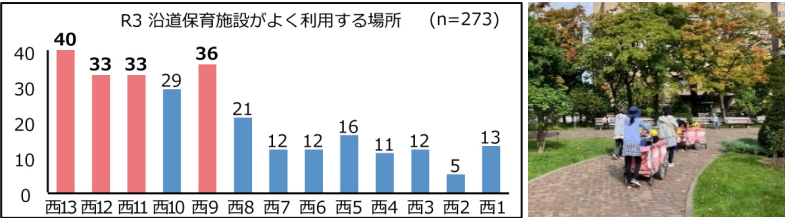
- イベントで占有されている印象がある
- イベント時にベンチを撤去しないでほしい
- イベント時は人が多くなり歩けない・休めない
- イベントがあっても日常利用したい
- イベント時に休める所を増やしてほしい
- イベントをやるところとやらないところで分けて欲しい



出典：札幌市「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌はぐくみの軸強化方針-オープンハウスアンケート調査」（令和4年（2022年））

■保育施設がよく利用するエリア

- 大通公園周辺に保育施設が増えたことに伴い、**保育園児の利用が多く見られる**。遊具が設置されている西9丁目より西側の利用が多いものの、全丁目で利用がなされている（芝生広場を中心とした利用が多い）。



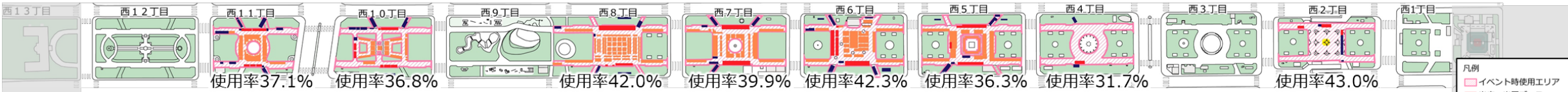
出典：大通公園の利用、公園連続化に関するアンケート調査結果（令和3年（2021年））

■イベント開催・設営時の公園使用状況

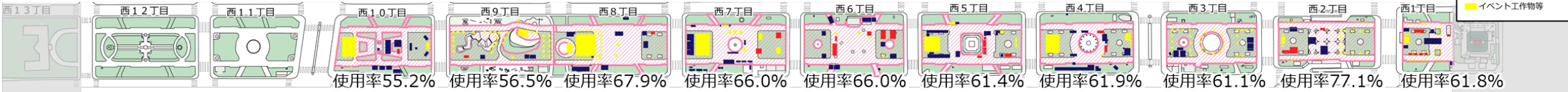
- イベントの開催期間のみならず、その**準備（設営・撤去作業）にも多くの期間を要しているのが実情**で、このことが日常利用の機会をさらに少なくする要因となっている。

イベント時の占用レイアウトと会場レイアウト（2022年度）

さっぽろ夏まつり



さっぽろ雪まつり



主な課題

- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間（設え）についての検討が必要である。
- イベントの準備期間短縮につながるような施設整備についての検討も必要である。
- イベントそのもののあり方や受入条件、時間的・エリア的な空間の有効活用等についてソフト面においても検討が必要である。
- 保育園児の利用を始めとする多様な日常利用のニーズを受け止めていくことが必要である。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- 遊び機能の充実など、**周辺施設の変化や多様な日常利用のニーズを踏まえた空間の整備を検討する。**
⇒ **<生活の場（日常）>**
- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間や、設営・撤去期間の短縮に資する設備の整備を検討する。
⇒ **<生活の場（日常）> <発信の場（非日常）>**
- 大通公園にふさわしいイベントの開催やさらなる賑わいの創出に向け、**イベントのルール作りや、質の向上に向けたマネジメント体制の構築について検討する。**
⇒ **<発信の場（非日常）> <公共によるマネジメント>**
- 大通公園ならではの集客力や発信力を捉えた先進的な取組や社会実験の場としての活用も検討する。**
⇒ **<将来性・国際性>**

【維持・継承の方向性】

- 都心のオアシス機能を果たす**公園の樹木・芝生・水景空間を継承する**。〔再掲〕
⇒ **<都市の中心にあるみどり>**
- みどりや花が豊かな空間で歩く・休む・遊ぶ・食べるといった**日常利用の場を確保する。**
⇒ **<生活の場（日常）>**
- 市民に長く親しまれ、楽しまれてきた**イベントの開催を継続する。**
⇒ **<発信の場（非日常）>**

⇒ <>：今後の大通公園のあり方を考えていく上でのキーワード